

## 視察報告書 新富町電子投開票選挙 2026年2月28日～3月2日

町田市議会 無所属会派 吉田つとむ 2026.3.8 提出

### 宮崎県新富町について

宮崎県児湯郡新富町は宮崎県のほぼ中央部の沿岸地帯にあり、総面積 61.48 平方キロメートル、総人口：16,718 人の町である。町内を通る鉄道は、JR 九州の日豊本線が通り、日向新富駅がある。ただし、その日豊本線は単線であり、日向新富駅には特急の停車駅にはなっていない。道路は国道 10 号線が通り、店舗等はその沿線に集中している。町役場や町の文化スポーツ施設もその 10 号線沿いにあり、商業店舗類も同様に配置されているようだった。



新富町役場と、裏の駐車場と庁舎の裏側

### 宮崎県新富町の電子投票選挙について（2026年3月1日投開票）

宮崎県新富町では、今回町長選挙が予定されており、同時に町議補選も予定されていた。その双方を電子投票で実施する計画が立てられ、その業務は、電子機器メーカーの「京セラ」が担当することになった。

ただし、告示日の2月10日までに町長の立候補届者は現職1名となり、無投票当選となった。一方の町議補選は2名の候補者が10日の告示日に名乗りを上げ、2月28日までの選挙戦となり、3月1日の投票日を迎えた。

言うまでもなく、今回は選挙戦が視察目的ではないので、選挙の候補者のこと、選挙戦については一切の取材をしておらず、ただただ、「選挙」をもたらしてくれた双方の候補者の勇気に敬意を示すものでした。



3月1日、選挙看板前で、投票開始前と日中に撮影。

<電子投票の導入と、中断、再開の経緯>

## タブレットを使う電子投票（宮崎県新富町）

### 九州では初めてとなる電子投票選挙を視察

電子投票選挙が最初に導入されたのは、岡山県新見市の2002年の市長・市議選挙で、その後、順調の全国に広がりました。岐阜県可児市の市議選では複数の電子投票機の投票データ記録がサーバーのMOに記録する方式が採用され、オーバーヒートして投票が大きく中断し、帰ってしまった人が多数出た結果、選挙無効の裁判結果が生じ、電子投票選挙の動向が一挙に無くなってしまいました。

専用機でなくても可とする新たな基準に沿って、2024年12月、大阪府四條畷市の市長・市議補選に、電子投票選挙が再導入され、無事に終了しました。メーカーは、新規参入の「京セラ」でした。タブレットを用い、片手で投票操作ができる特徴があり、記録はタブレット1台に1基のUSBメモリー（補助に1枚のSDカード記録）という、スタンドアローン（PC、機器、ソフトウェアがインターネットやLANなどの外部ネットワーク・他のシステムに依存せず、単独で機能する状態）に旧来に戻りました。

この成果を踏まえ、2026年3月1日、宮崎県新富町において、この電子投票方式が再び採用され、無事に投票を終えました。



## 電子投票選挙普及の明るい展望

宮崎県新富町では、町長選挙が無投票でしたが、町議補選が実施され、2名が立候補していまし

た。有権者数 13,409 人、投票率 27.31% で投票総数 3663 票というものでした。やぎ直美氏が 2,517 票を得て、当選者に決まりました。



この日の選挙では、朝一のゼロ票確認から投票所の外で、投票者の来場を待ち受け、他の見学者らと視察を行いました。大半の有権者が車で来場する投票所でしたが、高齢者も「楽に選挙ができた」、「スムーズに投票ができた」という声ばかりでした。他の投票所では、子ども連れた家族連れも目立ちました。開票は全体としてとてもスムーズであり、電子投票分の読み取り作業は 20 分、全体の開票発表は手間取っても合計 44 分でした。この宮崎県新富町の電子投票選挙には大勢の視察見学者がありました。各地の選挙管理委員会の皆さんと 3 名の地方議員、それに TV と新聞記者多数が参加しました。その中には、2 自治体（町長選を予定している町と、県知事選で当該の 1 市のみで実施する）というもので、私もその方々取材しました。それらの方の一番の心配は、無投票になって手配した電子投票機が不要になることでした。

## 視察の状況の報告

宮崎県新富町の電子投開票選挙視察 1、ゼロ票確認の様様 2026.03.01 を書きました。昨日夜（2026 年 2 月 28 日）に宮崎県新富町に到着して、本日 3 月 1 日の宮崎県新富町の電子投開票選挙視察に備えました。



まずは、投票開始前のゼロ票確認を視察しました。自分は当事者であるので、この時間に投票所に行くことは無く、ある意味目新しい光景になります。



午前7時が投票開始、その時間前に投票立会人の方が2名到着されました。もちろん、その前には投票事務を行う一般職員の皆さんが10人以上集まっていた。この場所は、一番大きな投票所だとのことでした。私が到着した時点では、一般の投票者の人は誰も来ておらず、やや肩透かしの面がありましたが、町長選挙は無投票で選挙が無く当選者が現職に決定し、町議補選（1名選出）ということで、一般選挙に見られるその種の熱意は起きなかったと言えます。



そのうち、最大手選挙機器メーカーのムサシの人が複数で見学に来られました。一人は東京本社から来た人で、私のことをご存じで、しばし、お話をしました。当然、町田市長市議選でも業務を担当される企業でもあります。



そこで、ようやく、最初の投票者の方が到着されました。投票所内に入ると、(投票機のゼロ確認)の説明を受け、投票機のセット場面がゼロ票確認をできる状態にされ、その確認後、(書面に)サインをされている様子でした。私たちは、会場内に一步も入っておらず、全て建物外から投票社内をうかがったものでした。



その後、三々五々に有権者やその家族連れの皆さんが入場券を手にして投票所に来場し、投票を済ませていかれました。たった1回の投票(町議補選)ということもあって、実にスムーズは投票風景でした。この場所の来評者は、見学した時間帯で1人を除いて、他は自家用車でした。車社会であることを再確認しました。

午前9時頃まで、投票者の動向を観察し、あるいは電子投票のかん難さを一部ものの方に、投票終了後に、口頭で尋ねたところ、皆さん、等しく、容易であった、簡単だったという返答がありました。



まず、最大の有権者があるという、第 1 投票所の新富町保健相談センター（町役場に隣接）に出向きました。そこだけではと思い、もう 1 か所の投票所に移動して、そこでの投票光景を見学しました。次いで、第 4 投票所（3 番目の規模）に出向きましたが、こちらは一般住宅が密集しており、徒歩で投票所に来ている方が目立ちました。

担当者の方に聞くと、この新富町では学校が投票所に使われることは無く、こうした集会所が使われているとのことでした。

ちなみに、資料を調べると、全 14 か所の投票所の内、11 か所がこの「集会所」でした。

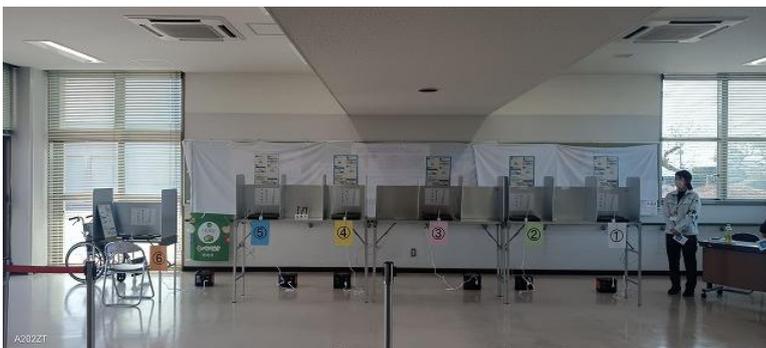


宮崎県新富町の電子投票視察報告 2 速報 (2026. 03. 01) を書きました。

この日は、宮崎県新富町の町長町議選が電子投票で行われることで、その視察を予定していました。告示日の 2 月 24 日、町長は無投票と言うことで、選挙の実施を危ぶみましたが、同時の町議補選は 2 人の候補者が名乗り出て、選挙になったことで、視察者の立場でホッとしました。



午後には、担当メーカーの京セラと新富町の選挙管理委員会（新富町総務課）の担当者の方から、電子投開票のシステムの説明と、新富町に電子投票選挙の説明が、事前に視察見学に申込者に対して実施されました。私もそれに、宮崎市議会議員の方、1 名（及び、その同行者の方）をお誘いしていました。併せて、地元メディアの皆さんも、地元の宮崎日日新聞社さんやそれぞれ新聞や TV の皆さんが見学に来られていました。



第 1 投票所の電子投票機のセット（一般用 6 台、障がい者用 1 台）



投票者の取材風景と、申し込み視察者の観覧場所(カメラ位置)

会場には、電子投票を想定している自治体やそれを検討しようという自治体の実務担当者が多数参加されていました。

質疑応答では、電子投票の信頼性を問うものは大幅に減りと言うか、ほとんどなく、コストに関する質問が多くなっていました。それも、電子投票選挙を予定して、立候補者が選挙を行う人数にならず、今回の新富町長選挙のように、無投票になった場合、レンタル用品が無駄に心配でした。つまり、個別の自治体にとっては、選挙に伴う支出の多寡と、立候補者が定数通りか、首長で1名しか立候補しなかった場しいにも、相応の負担が残るというものでした。

電子投票実施に関するハードルが1つ減ったという印象でした。一番は手書き選挙の課題で一番とわれる「疑問票」の存在ですが、これが100件ほどあり、その縮減に電子投票が役立つ、疑問票が存在しなくなる。投票者の選択だけを行うのが電子投票の特徴で、最も大きな導入意義ではないかと確信を深めました。



また、今回の視察の特徴は、我々視察団に関して、投票所内まで入れたことでした。選挙事務担当者の後方から投票光景を見ることができました。さらに、私の質疑を始め、他の質疑に関する内容や特記事項は、改めて記述します。

## 視察の所感

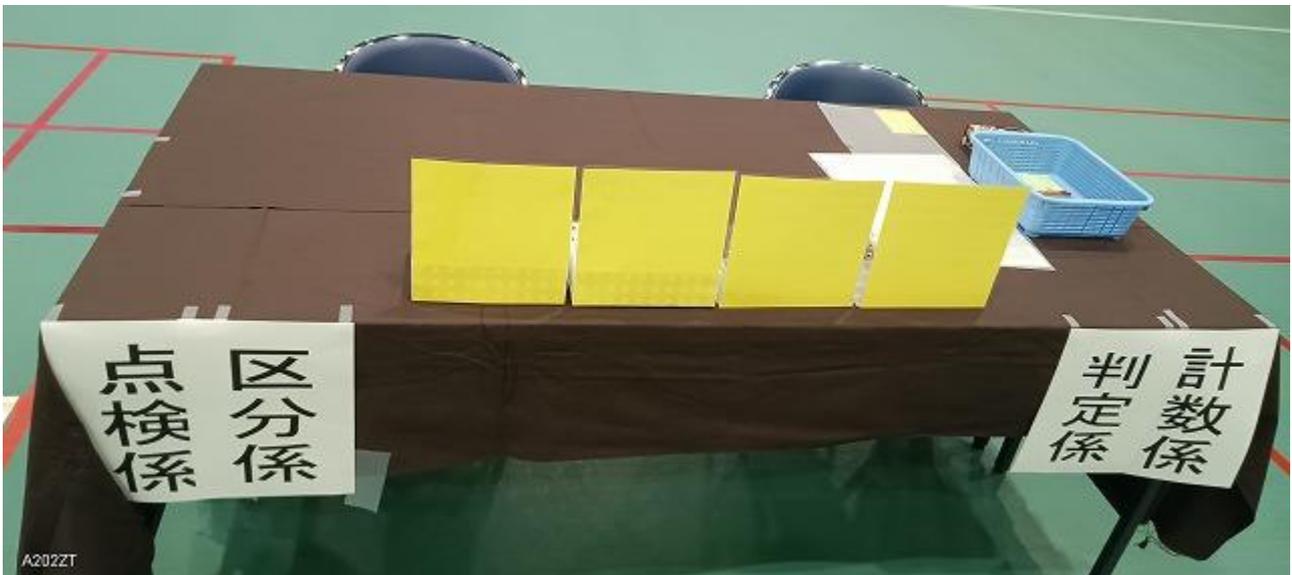
宮崎県新富町の電子投票選挙投開票の視察観察3速報(2026.03.1)を書きました。

ここでは、改めて、候補者の紹介ポスター(町長選は無投票、町議選は男女各1名)の方々が戦う一騎打ちでした。視察者、観察者にとって、この選挙が電子投開票方式であることに関心があり、この両者に敬意を示すものでした。ここ両者の片方がかければ、無投票となって、そもそも選挙が無いからです。

選挙の結果を先に言いますと、  
投票総数 3663 票

屋宜 直美 候補 新人 2517 票  
松下 幸史朗 候補 新人 1034 票

で、屋宜 直美候補の当選と言う結果でした。おめでとうございます。



まず、投票締め切りが午後6時となっていました。通常は午後8時です。それから、投票データのUSB、SDカードをケースに収めて、投票所に持ってくる行程に入り、まず、隣接する第1投票所の投票データを入れたケースと、不在者投票の投票用紙が投票箱に入れて持ち込まれました。この段階は順調で、開票時間の午後7時をはるかに前にした時間で到着し、テーブルの上に置かれました。

<私見>

\*この投票の締め切り時間ですが、午後8時を妥当する理由はどうなっているか、通常、午前7時から投票所が開けられ、13時間も選挙の投票時間が設定されていますが、期日前投票者が拡大している中、開票日の開票時間の遅れの改善も必要ではないかと思っています。



続いて、投票データを入れたケースのカギが開けられ、投票データのUSBとSDカードが取り出され、封印が解かれました。USBが計算するデータで、SDカードは予備データとして取り扱われます。

開票は、紙とUSBが別のテーブルで開けられました。紙の投票は100票ほどであったと思います。手作業のみで、数字が確認されていました。一方の、USBデータが読み取り機を通じてパソコンに移されていきました。



<所感>

開票作業を遠目に見ていると、USBデータの読み取りがスムーズに行っていないようでした。つまり、本来、1ケのUSBデータは数秒で終わって良いのに、一巡した後、さらに、集計係がUSBメモリーを読み込ませているように見えました。

もとより、USBデータの読み取り損ないは、事前のメーカーの説明会（午後1時から開催）で説明を受けたもので、複数のUSBデータを読み取り機に差し込み、パソコンで読み込んでいくのですが、差し込み不良が生じ、データの読み込み損ないが発生させたものと思われます。

ただし、このUSBデータの読み取り損ないは、もう一度、差し込んで読み取ればよいもので、同じデータの読み込みが二重になることは無いという説明を聞いているので、選管職員（責任者）がマスメディアの囲み会見では、記者の質問があり、その経過趣旨が説明されていると推測しています。その場で、メーカー社員による説明はなされていなかったと思います。

つまり、開票作業の説明は、選管側のみがメディア側に行っていたと理解しています。

電子投票の開票作業は短時間で終了しているはずであり、上記の経緯を開票作業の見学者に対して、選管側が端的に説明してくれればよかったと思っています。

もう少し、善意に考えれば、現在では、まだ、電子投票選挙を導入すると言うだけで、選管や行政担当者に大きなプレッシャーが生じていると理解している面も指摘させていただきます。宮崎県新富町の選管の方々、職員の皆様方、お世話になりました。

## 投票総数の問題

こうした経過を見ると、計測を始めて10分か、15分で、投票結果が発表されるのではないかという期待が見学者に起きました。

ところが、なかなか得票結果の発表がなされず、途中で、投票総数の訂正が行われました。3662票とされたものが3663票とされ、その理由の説明がなく、釈然としないものでした。



## 開票結果の発表のスピードについて、

この日の京セラと新富町選挙管理委員会（新富町総務課）の説明会の説明で、電子投票の開票は紙の開票に比べ、USBの読み取りスピードから各段に早くなる印象を参加者は等しく受けていました。それは、得票結果が選管委員長から得票数が発表されるまでに相当数の時間（約40分以上）を擁しました。何かのトラブルがあったのではないか、どこに問題がありそうか、責任者から途中経過の説明が欲しかったというのが実感です。この、開票作業の進行、内容に関するものが全く途中経過で説明されない進行方法が一昨年の大阪府四條畷市の電子投開票選挙の結果発表の経緯と同じような傾向を起こしていると思わせました。

吉田つとむが気になったのは、紙の投票用紙の区分け作業が、2人のみで進行している点でした。2人でやるから二重点検なのか、一体で行うならばそうとは言えないのではないだろうかと思いました。特に数が少ないだけに、ダブルチェックでカウントされるべきではないかと思っていました。

この文章を書いている間に、[朝日新聞 2026年3月1日 20時53分電子投票、開票作業は22分 職員も大幅減 宮崎・新富町議補選の記事](#)が発表されていました。申し訳ないが、あまりに中身がない記事と言えましょう。

なお、紙の投票用紙の計算に関して、2名の計算は上司と部下の二人の立場で行われていたという見方をする見学者もありました。

いずれにしても、1票の差は、紙の投票段階か、投票者の入場券の受付段階で発生している、その相違を経緯説明と合わせて、選管委員長の数字発表の時に同時に行っておれば、1票の問題は生じていなかったと思っています。

選挙において、入場の受付段階で数の間違いは起きうるものであると考えるものです。



## 開票結果の発表内容（記載事項）について、





そこには、大勢のマスメディアの皆さんがいられていましたが、この疑問は起きなかったのでしょうか。不思議です。

## 今後の電子投票の機器改良について

<参考 日本で最初の電子投票選挙 現地取材したもの>

### 10 現地撮影写真 5 第1と7投票所、新見駅前の電子投票看板

電子投票の新見市を訪ねる

[https://yoshidaben.jp/shousai/sakuin/kako/006doc/sha/002/08/20\\_5.html](https://yoshidaben.jp/shousai/sakuin/kako/006doc/sha/002/08/20_5.html)





以下は、03年12月30日にネットに書いた文章を転機しました。

## 電子投票の投票とそのトラブル対.. - 吉田 つとむ 12/30-10:43 No.3753

電子投票で、1人が1票を投票する原則を保障し、それを投票の終了まで維持するべきです。

そのためには、電子投票機が故障しないように務めるべきであり、どこかに故障が発生しても、それをカバーする方法が必要です。

投票において、

1. 入場者の確認と投票カードの発行を確実に行う。
2. 投票カードのトラブルが少ないタイプであり、トラブルが発生した際に、その代替手段が確保でき、トラブル内容が後で解明できる方法が取ってあること。
3. 投票カードの使用が投票1回のみで、投票が出来ない仕様（投票後に、その使用済みカードを回収し、新たに投票出来る書き込みを行った後、次の入場者に使用する）方式になっていること。持ち帰っても、他の投票所では利用できないこと。
4. 投票の秘密を厳守するために、投票者が人にたよらず、投票できるシステムになっていること。
5. 投票が開始したら投票の終了まで、何人も投票機の中身をいじらないこと、トラブルの発生時には、投票管理者と立会人が共同で、そのトラブルの状況を確認する。あくまで、投票機内部や投票データが入った記録媒体をいじらない原則を確立する。

上記のことは、電子投票における投票所における原則と考えます。問題は、トラブルが発生したときに、その情報開示を行う準備をあわせて行う準備態勢をとっておくことと、投票

機の構造がトラブル原因を簡明に判別できるようになっていることが必要でしょう。

・・・・・・・・・・・・・・・・

### ◎ 音声読み上げ機を取り付け、投票ボタンを使用する

電子投票の機器改良では、まず、障がい者対応の改善が考えられます。

現在の京セラのタブレット投票機に、音声読み上げ機を取り付け、投票者がボタンで投票する方式が導入されるだろうと思います。この方式は、初期の EVS が実施する電子投票では、標準的に行われていたものです。もし、設置台数に限りがあるならば、視力障がい者の入場受付の際にのみ、音声読み上げ機を取り付け、投票ボタンを使用すれば良いと思っています。

### ◎ 投票者の投票終了確認について

現在の京セラの電子投票機では、「世話役」が QR コードをかざして、画面を投票受付状態にしますが、投票機の前に人を配置するコストが余分にかかるシステムになっています。

さらに、投票の終了サインが音声になっていますが、投票立会人が投票者の投票を確認する方法としては、立会人のとの距離感が改善されるべきだと思っています。

初期の EVS の機種では、投票終了を視認できる装置（投票確定ランプ）が投票機に 1 台ごとに取り付けてあり、立会人が投票者の投票行為を視認しやすいようにできていました。音声で投票終了を確認するより、はるかに容易であろうと思っています。

また、入場者の本人確認に関して、初期の EVS の機種では、入場券と使いまわしが出来る入場カードを発行して、1 枚の入場券では 1 枚の投票カードが発行されていました。その投票カードを電子投票機に差し込み、投票機画面の候補者を選択する方法（現在と全く同じ方法）が取られていました。ただし、この投票カードの飲み込み方式は装置の大型化が必要で、タブレットを利用する現在の機種とは相性が悪いと思っています。ただし、マイナンバーカードの読み取り機をタブレット機に外部接続する方法が容易かも知れません。いずれにしても、現在の課題を改善し、低コストで済むものを考案する必要があるでしょう。

現在の QR コードの低コスト性を取り入れ、しかも、世話役を必要としない方法が採用されるべきだと思っています。

現在のタブレット方式で電子投票を実現している京セラの開発力で、十分に対応できるものと思っていますし、今回、見学に訪れた選挙投開票機器のメーカーも、下記の電子投票普及に即して、それらの課題を超えた便利なシステムを研究してくるだろうと思っています。

## 今後の電子投票の普及について

今回の宮崎県新富町の電子投票選挙に関して、多数の選挙管理委員会の視察者に、今年電子投票選挙を予定する 2 自治体の視察者がありました。また、個人で訪れていた、2024 年

12月に電子投票選挙を実施した大阪府四條畷市の職員の人が入っていました。

いずれの人々とも、投票所や開票所、あるいは宿泊先で会話ができました。一方で、直に経験を持った人、これから初めて電子投票選挙を行う立場の人々の双方と会話ができる実りあるものでした。



選挙の公営掲示板と候補者ポスター、  
を体験する

視察見学の外山ちぐさ宮崎市議が電子投票選挙

今回は、町議補選のみでしたが、本来は、新富町の町長選挙と町議補選の双方が予定されており、1台の電子投票機を使って、2種類の選挙の投票ができる準備がされていました。大阪府四條畷市の選挙と比べ、技術上の大きな改善でした。



四條畷市の電子投票選挙視察

また、市議選のように大勢の立候補の中から選択する場合、1画面に4人の候補者名を並べ、それを五十音の列ごとに配列して投票者を選択する技術も見込まれています。その技術自体、上記のEVSでも考案して、参議院比例代表選挙に対応できるシステムを開発していましたが、国政では電子投票選挙を実施する話が全く進みませんでした。



町田市議会 無所属会派の電子投開票システムの勉強会開催

電子投票の普及には、今年に予定されている電子投票選挙が順調に進むこと、さらに来年の統一地方選挙において、全国で10以上の自治体が電子投票選挙を実施することが、この技術普及のステップアップを実現してくれることでしょうか。そのためには、小規模自治体だけではなく、中規模、大規模都市で電子投票選挙を実施することが優先と思っています。幸

い、日本の大規模都市は政令指定都市の制度を取っており、その特定区だけの実施も可能ですし、広島市安芸区では、実施された例が先行しています。

それらを超えて、次の段階で国政での実施導入が課題になってくると思います。この種の制度や技術の導入で国が先行するのは珍しく、散々、地方で取り組ませて、やっと国が腰を上げるというものではないでしょうか。

先行して、電子投票を導入してくれた、大阪府四條畷市と宮崎県新富町の皆さん、そしてその電子投票システムを開発してくれ、絶えず、改良していこうとしている京セラの皆さんに感謝しています。